「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿とは？」

２０２２．２．８　大分県教育委員会

CASE 28

4歳児

「先生、これ見て！」

協力園
別府大学
附属幼稚園

（幼児の実態）

年中組に進級する四月を待っていたかのように、子どもたちは道具置場に集まり、ダンゴムシ探しに熱中します。石やブロックを裏返し、草や枯葉、土砂を手でのけてダンゴムシを探します。捕まったダンゴムシは球体に変身して防御しますが、子どもたちは、これがまた、面白くてたまりません。何を食べるか、どこにいるのか調べたり、ストローでトンネルを作って遊ばせたり、それぞれにダンゴムシとの関わりを楽しむ日が続いています。

この日も７～８名の子どもたちが道具置場にやって来ます。ここは、園舎裏にありスチールの倉庫や、道具を置く木製の棚が置かれ、日陰であることからダンゴムシが好む環境となっています。子どもたちは、いつものように石やブロックを裏返したり、隅にある草や葉を手でのけたりしてダンゴムシ探しに熱中しています。下に隠れていたダンゴムシは、何本もある足を動かして子どもたちの手の届かない奥に潜ったり、柱の裏側に隠れたりして捕まりません。球体になって防御しても、中には、子どもたちの手に収まったダンゴムシもいます。「捕まえた」と歓声をあげ、輪になって眺めたり、球体になった固いダンゴムシを代わる代わる触ったりします。隠れ先を見失ったダンゴムシが、再び現れると「いたっー！」と、両手で抑えて捕まえます。ダンゴムシの逃げ足は、素早くはなく、地面をはうことからも子どもたちの手にはかかりやすいようです。

友達と一緒に道具置場でダンゴムシ探しに熱中していたＹ児。手には、捕まえたダンゴムシを入れる砂入りの透明なパック容器を持っています。柱のそばで一匹を見つけ「いたっ！」と、両手で覆うようにダンゴムシを囲み、捕まえることに成功しました。先に捕まえたＲ児にも嬉しそうにダンゴムシを見せパックの容器に入れます。

そうしている中、ダンゴムシ探しに夢中のＹ児が「先生、これ見て！」と、突然枯葉をさし出したのです。

Ｙ児は、ダンゴムシを探している途中、この枯葉を見つけたのです。差し出した枯葉には、穴があいていました。Ｙ児たちが生活する保育室には、ダンゴムシの好きな食べ物やすみかなどを示す掲示物や図鑑が置かれています。その中に「たべたのは　これ！」と、緑の葉は×で、枯葉は○の掲示物があり、枯葉にはかじった跡が○で示されています。Ｙ児たちは、これまでにこの掲示物や写真を見て、ダンゴムシはどこで見つけられるのか、何を食べるのかと、繰り返し話題にしてきました。Ｙ児は、今、見つけた穴のあいた枯葉を、食べ物やすみかを示す掲示物と比較したり、友達との話に重ねたりして、枯葉である、穴があいている、ダンゴムシを見つけた場所に落ちていたことから「ダンゴムシの食べた葉」と判断したのです。掲示物で見た穴のあいた葉の実物を見つけることができたこと、ダンゴムシが好む食べ物も見つけることができたことの嬉しさや喜びを保育者に知らせたかったのでしょう。「先生、これ見て！」の弾むような言葉は、Ｙ児のこうした思いから発せられたものと思われます。

一緒に虫探しをしていた保育者は、Ｙ児が見せた枯葉に「ホントだね」と、思いを全て汲み取るように共感しました。そして、枯葉とダンゴムシをどう関わらせるのだろうと思い、「どうする？」と声をかけ、見守りました。Ｙ児は、「ダンゴムシのごちそうにしたい」と思ったのか、「入れとく」と、枯葉をパック容器に入れました。

Ｙ児のパック容器は浅く、上部でダンゴムシが動いています。ダンゴムシが逃げ出さないようするには深い容器が必要と考え、材料置場から牛乳パックを準備しました。容器に移し替える際、ダンゴムシは潰さないようそっとつまんで入れます。球体になったダンゴムシは、落とさないように指先でつまんで入れます。見つけた枯葉を入れる時、一緒に虫探しをしたＲ児は「葉っぱも入れるんやな」と枯葉に関心を持ち、そばで見ています。Ｙ児は「これダンゴムシが食べるんや」とＲ児に答えていました。

降園の時間になっても牛乳パックの中のダンゴムシが気になるＹ児。パックの上からのぞいて「いるいる。葉っぱ、ちゃんとある」と食料の枯葉も確認しています。しかし、牛乳パックの中のダンゴムシは、底の方に小さく見えるだけで観察するには不便そうです。「観察しやすい飼い方はどうしたらいいかな？」Ｙ児の興味や関心はまだまだ続きそうだと、保育者は楽しみにしているところです。

「ダンゴムシ、どうしているかな？」中のダンゴムシと枯葉を確認する

深さを考え牛乳パックに移し替える

「先生、これ見て！」穴のあいた枯葉を見つけて知らせるＹ児

「ここにいるかな？」草や葉をかき分けて探し、透明パックに入れる

食べ物やすみかを示す掲示物

事例から見られる10の姿の育ち

自然との関わり・生命尊重

園舎裏にある道具置場でダンゴムシを探す遊びが活動を始めると、ダンゴムシが活動を始めると、ダンゴムシを探す遊びが大人気となる。Ｙ児たちは、石やブロックを裏返したり、草や落葉の中を夢中になって探したりする中で、数十本の足を使って逃げる様子や球体に変身して防御するダンゴムシの不思議さや面白さを感じている。

強くつまみ過ぎると潰れてしまいそうなことに気付いたＹ児は、ダンゴムシを優しくつまみ、生き物を大事に扱おうとしている。また、「自分が見つけた枯葉はダンゴムシの食べ物になるから容器に入れよう」と、命あるものをいたわり、大切にしようとする姿が見られる。

事例から見られる10の姿の育ち

思考力の芽生え

道具置場で穴のある枯葉を見つけたＹ児は、掲示物や図鑑の枯葉を想起する。そして、実物の枯葉と掲示物のダンゴムシが食べた枯葉と比較しながら考える。「枯葉である」「穴があいている」「ダンゴムシを見つけた場所に落ちていた」等、見つけた枯葉は、掲示物や図鑑の条件に当てはまることに気付き、Ｙ児は「これは、ダンゴムシが食べた枯葉、好きな枯葉」と結論に至ったのであろう。自分で考え、発見した喜びが「これ見て！」の声につながったと思われる。

浅い容器からダンゴムシが逃げ出す様を見たＹ児は、登りきれない深さを予測して牛乳パックに移し替える。ダンゴムシを飼うためのよりよい環境を創り出そうと工夫する姿も見られる。

自然との関わり・生命尊重、思考力の芽生え
保育者の援助・環境構成のポイント

・興味のある遊びに熱中したり、探求心を支えたりする環境構成

生態が面白く、４歳児でも容易に捕まえられるダンゴムシ。石やブロック、湿った日陰などダンゴムシの生息に適した園庭の存在。ダンゴムシの成長や好物に関する掲示物や図鑑などの環境設定。

・子どもの発見に共感し、子どものやりたいことを尊重する保育者の存在

一緒にダンゴムシ探しをする中で、子どもの短い言葉の中にある発見をこれまでの経験から受け止め、共感する保育者の存在。

・同じ目的をもって遊ぶ友達の存在

不思議な生態を示すダンゴムシに興味や関心をもって一緒に遊ぶ友達。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
「10の姿」

協同性　**思考力の芽生え**　**自然との関わり・生命尊重**　言葉による伝え合い

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。